

キリスト教学

概要

担当教員	池田洋子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年
時間数	90分×15回
単位数	2

キリスト教の成立と発展の源泉は、イエス・キリストの人格と思想である。聖書やDVDなどを使用してイエス・キリストがどのような人物であったのか、どのように生き、どのような教えを伝えたのかを理解する。キリスト教的価値観を学ぶことを通して、自分の価値観に気づき、また、責任ある社会人となるためには、どのように生きたらよいのかを考える。授業始めの立腰やロザリオの祈りなどを通して静かな時を持ち、自分の生き方について振り返る習慣が習得できる。

目標

キリスト教の原点であるイエス・キリストに対する理解を深めることができる。
 旧約聖書・新約聖書に対する理解を深めることができる。
 キリスト教が生み出してきた芸術、音楽や絵画などの知識を深めることができる。
 「建学の精神」を深く理解し、実践することができる。
 長い伝統を持つ祈りを学び、内省する習慣を身につけることができる。

各回の内容

1. キリスト教学を学ぶ意味：建学の精神
2. 創立者聖マルグリット・ブルジョワの生き方
3. 宗教と芸術
4. 教会について
5. 旧約聖書について
6. 新約聖書について
7. イエスの生きた時代
8. クリスマスの意味
9. イエスの誕生
10. イエスの教え(山上の教え)
11. イエスの教え(最も重要な教え)
12. イエスの奇跡物語
13. イエスの受難物語
14. イエスの復活物語
15. 振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：授業で指示された範囲の聖書・資料などを読んでおくこと。

復習：授業で学んだ資料プリント・聖書などを整理し、レポートにまとめておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポート50%、リアクションペーパー30%、授業参加態度20%

教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会

参考文献

授業時に提示する。

福祉学（ボランティアワーク）

概要

担当教員	狩野・池田・築田・齋藤
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年
時間数	講義15時間・実習30時間
単位数	2

建学の精神に基づき、「愛と奉仕」「共に生きる」を具現化し、社会の中で価値ある自分として生きる基礎を学ぶ。オフキャンパスプログラムであるため、授業7回に加えて、地域社会に出て30時間以上のボランティア活動を行う。自己を見つめ、地域社会の課題に気づき、時代の要求に応えるような新しい地域共同体をどのようにしたら創り出すことができるかを学ぶ。

目標

地域社会や地域貢献への理解が深まり、他者と共に生きる社会構成員としての責任感を習得できる。
 学生の多様な物の見方を促し、ボランティア活動への関心を高めることができる。
 「就業力」に結びつく質の高いボランティア活動を体験できる。
 学生たちのスキルが高まり、資格(栄養士・幼稚園教諭・保育士など)取得の一助となる。

各回の内容

1. ガイダンス
2. ボランティア活動の意味（講話：福島県社会福祉協議会）5月18日（金）
3. NPOとその活動(若者支援 講話：ピーンズふくしま)6月1日（金）
4. 国際理解とボランティア活動(講話：青年海外協力隊) 6月15日（金）
5. 献血の役割と赤十字センターの機能（講話：赤十字センター）6月22日（金）
6. NPOとその活動（リサイクル 講話：ザ・ピープル）7月10日（火）*金曜授業日
7. ボランティア活動
8. ボランティア活動
9. ボランティア活動
10. ボランティア活動
11. ボランティア活動
12. ボランティア活動
13. ボランティア活動
14. ボランティア活動
15. ボランティアという生き方（講話：ルワンダの教育を考える会）平成31年1月18日（金）

準備学習（予習・復習等）

ボランティアとしての活動内容は一律のものではないため、実状に応じた対応が求められる。
 ボランティア案内の掲示に従い、ボランティアセンターを活用して、ボランティアの目的、場所や時間、内容について、事前に調べ必要に応じて、ボランティアセンター窓口相談する。実施後は、簡略な記録を各自残し、最終課題（レポート）に備える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

ボランティア活動実績報告書とボランティア活動レポート80%、授業参加振り返りシートによる評価20%

教科書

なし

参考文献

図書館に関連図書多数

国際ボランティア

概要

国際化が進む中で人々の交流やボランティアも国際的なレベルでの活動になっている。この科目では訪問地で英語を学び、現地の人々と交流をする。また、国際的レベルでのボランティアの基本を学び、体験する機会を持つ。さらに創立者マルグリットがカナダで築いた大学などを訪問する。講義5回、そして演習としてカナダを訪問する。

担当教員	後藤真 狩野奈緒子
授業形態	講義 演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

英語を学び、訪問地でそれを実際に使う体験をすることができる。
 国際的なボランティア活動を体験することができる。
 現地で暮らす人々と交流し、多文化に触れる機会を持つことができる。
 自分にチャレンジするチャンスを持つことができる。
 桜の聖母学院のルーツを辿り、「建学の精神」について理解を深めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 人々と「共に生きる」精神とは何かを考える

3. カナダの風土・文化・歴史について理解を深める

4. 建学の精神および創立者について理解を深める

5. カナダ研修の準備

6. 海外研修

7. 海外研修

8. 海外研修

9. 海外研修

10. 海外研修

11. 海外研修

12. 海外研修

13. 海外研修

14. 海外研修

15. 海外研修

準備学習（予習・復習等）

配布された資料プリントをよく読む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

レポート 30% 授業参加態度 20% ボランティア遂行意欲・態度50%

教科書

なし

参考文献

授業時に提示する。

福島学

概要

福島学では、地元学としての意義を基礎に置きつつも、福島県の現状に立ち、最重要課題が地域の復興、再生であることを認識し、福島県の産業や暮らしの現状と課題について学ぶ。東日本大震災の爪痕や原子力発電所事故の現状を視察によって学び、復興のために尽力する人々との出会いによって、学生自らが気づきや感動を得て、主体的なかわりを創造していく。

担当教員	三瓶・木下・山下ほか
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回相当
単位数	2

目標

学生自らが、主体的に「復興」を考えるとともに、学生の力で地域に貢献し、地域の復興を支援する。被災地を視察することで当事者性が育ち、学生自身の将来と福島県をはじめとする東北の復興を自らの課題にできる。その意識が社会人基礎力を育て、主体的に生きる力がつく。

各回の内容

1.	4月20日	5限目	イントロダクション	なぜ「福島学」を学ぶのか / 諸先生からのメッセージ
2.	5月11日	5限目	福島のおもてなしの安全性について	～安全性の見える化～
3.	6月29日	5限目	南相馬市の現状について	(南相馬市職員からの解説)
4.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
5.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
6.	7月14日	丸1日	フィールドワーク	南相馬市の視察
7.	7月27日	5限目	視察で得たことのシェアと私たちができることのディスカッション	
8.	8月3日	5限目	福島県で新たな道を開く若手農家の話	
9.	8月22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」または「Berry's Garden」の視察	
10.	8月22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」または「Berry's Garden」の視察	
11.	8月22日	フィールドワーク	「ななくさ農園」または「Berry's Garden」の視察	
12.	10月12日	5限目	私から見える「福島の問題」と復興ビジョン1～世界から見るフクシマ～	
13.	10月26日	5限目	私から見える「福島の問題」と復興ビジョン2	
14.	12月7日	5限目	私から見える「福島の問題」と復興ビジョン3～今までの学びを生かす～	
15.	12月21日	5限目	地域を学ぶ意味～プレゼンテーション～	

準備学習（予習・復習等）

<予習>

ニュースや新聞、雑誌などの報道などを通して、福島県の現状を把握しておくこと。
また人口推移や地方創生など、現在、地方が抱える社会問題などをまとめておくこと。

<復習>

毎回の講義を受けた後に、その日にテーマになった内容についてを調べ、考察し、自らのコメントを書くこと。（次回の授業時に提出）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業や視察における振り返りシートやレポートの記述80%

授業や視察における積極的な姿勢20%（予習・復習の姿勢、質問への積極性などを含む）

教科書

指定しない 必要な資料などは準備して配布する

参考文献

池田清彦・養老孟司『ほんとうの復興』（新潮社、2011年）

室崎益輝ほか『震災復興の論点』（新日本出版社、2011年）

関満博『東日本大震災と地域産業復興』～（新評論、2012年）

朝日新聞特別報道部編『プロメテウスの罠』1～9（学研パブリッシング、2013年）

桜の聖母短期大学『「福島学」から「移動文化祭」までの道のり～学生が編み出した復興支援プロジェクト～』（ACF福島学シリーズ6）（アカデ

ミア・コンソーシアムふくしま、2013年）

開沼博『はじめての福島学』（イースト・プレス、2015年）

川口マーン恵美『復興の日本人論 誰も書かなかった福島』（グッドブックス、2017年）

一ノ瀬正樹・早野龍五・中川恵一編『福島はあなた自身 災害と復興を見つめて』（福島民報社、2018年）

国際平和論

概要

集中講義と沖縄研修によって学びを深める科目である。集中授業では、20世紀の戦争の歴史を学び、そのなかからグループごとにテーマを決めて研究発表をする。また、沖縄戦の実相を学び、沖縄の基地問題についても理解を深める。それらの学びをふまえて、3泊4日の沖縄研修に参加する。「国際平和論」は沖縄研修参加が履修条件となる。

担当教員	山野実、元井貴子
授業形態	講義
学期	後期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

世界には紛争や対立によって、欠乏と貧困にあえぐ人々がいることを知り、世界平和について考えることができる。人類の戦争の歴史を振り返り、国際平和の実現のためにどのような取り組みがなされたいのか、何が壁になっているのかについて理解することができる。そのうえで、平和のためにできることを各自考察することができる。とくに、沖縄研修によって知る地上戦の悲惨さや米軍基地問題は、平和への思いを具体化し、平和を希求する心を育てることができる。

各回の内容

1. ヒトはなぜ戦争をするのか
2. 戦争の実相、紛争の現状
3. 平和論
4. テーマ学習指導
5. テーマ別研究発表
6. テーマ別研究発表
7. 沖縄研修
8. 沖縄研修
9. 沖縄研修
10. 沖縄研修
11. 沖縄研修
12. 沖縄研修
13. 沖縄研修
14. 沖縄研修
15. 研修のまとめ

準備学習（予習・復習等）

平和論、沖縄問題などに関する書籍、ニュース等に積極的に触れ、関心を高めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

グループ別研究発表の成果60%、研修後のレポート40% による総合評価

教科書

なし 資料を配布する

参考文献

授業時に紹介する

哲学

概要

この授業では、哲学の伝統的な問題を知ると共に、日常の当たり前の物事についてあらためて考えてゆく。初めの数回は導入として、「生」や「死」あるいは「勉強」や「大人になる」といった主題について問題提起を試みる。次に、「映画」と「衣服」を題材として、私たちの日常を思想的に分析する。その後、哲学の基本的な歴史と各哲学者の思想を、私たちの日々の行動を手がかりに、学んでゆく。また、講義全体を通して、「知る」ことよりも「考える」ことを重視する。

担当教員	小原 拓磨
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1,2年合同
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

まず、哲学は難しいという固定観念が取り除かれる。哲学は基本的なことを問う学問だが、それは世界を子どもの目で見ることであると気づける。「生」や「死」ということについて、それらに答えはないということ、ゆえに考え（思考）が問題であること、そしてそれは自由であることを知る。また、「映画」や「衣服」といった日常の物事について考えてみることで、それらがこれまでとは違った仕方で見えてくる。西洋哲学の歴史における、何人かの哲学者とその哲学を知ることができる。学んだ哲学者の思想（考え方）をもとに、身の周りや自分自身のことについて、自分で考えられるようになる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「考える」とは？
3. 「自分らしさ」とは？
4. 映画で考える（1）『となりのトトロ』と日本的感受性
5. 映画で考える（2）『もののけ姫』と自然
6. 映画で考える（3）人間、クローン、ロボット
7. 衣服の現象学（1）ひとはなぜ服を着るのか？
8. 衣服の現象学（2）化粧のコスモロジー
9. 目覚め（1）デカルト、カント
10. 目覚め（2）キリスト教、ヘーゲル
11. 通勤 ニーチェ
12. 仕事 マルクス、ヴェーバー
13. ショッピング ラカン
14. フィットネス ハイデガー
15. 睡眠、夢 ユング
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習：毎回配布される資料をあらかじめ読み、そこで論じられる主題について自分なりにポイントをまとめ、また、分からない点を明確にしておく。
復習：授業に関心をもった主題、強く惹かれた主題について、紹介する参考文献を図書館等で入手し、各自でさらに探求する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

学期末に行う論述式試験（70％）と、不定期で実施するリアクションペーパー（30％）の記述内容で評価。試験の解説等は、試験の形式上各自で回答が異なるため、希望する者にかぎって個別で応じる。

教科書

なし。毎回、資料を配布。

参考文献

そのつど紹介。

心理学

概要

人間観の変遷、ヒトの感覚と知覚、社会的行動、ライフサイクル、臨床心理学とこころの健康、性格と人格、ストレスコーピングスキル、等について概説する。また、少人数によるグループワークも積極的に取り入れていく。

担当教員	後藤真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

心理学全般についての基礎的知識を身につける。また、心理学の知見に基づき、こころの複雑な働きに対する興味・関心を培うと共に、自らの日常生活に密接した諸問題を心理学的に捉えることができる。

各回の内容

1. 導入
2. 社会の中の自己
3. 人間観の変遷と心理学の発展
4. 感覚・知覚の心理
5. 記憶のメカニズム：効果的な学習
6. 発達理論と発達段階
7. 自己概念と自尊感情
8. ライフサイクルにおける大学生期
9. ライフサイクルにおける大学生期
10. 行動心理：他者の存在とコミュニケーション
11. ストレス
12. 「癒し」と心理療法
13. ルーツとしての家族
14. ツールとしてのsystemic approach
15. 自己洞察と他者理解の心理

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業で予習すべき内容（重要語句や心理学に関連する記事等）について指示する。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポートの作成および提出を求める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

授業時に紹介する

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書（新赤版931）

心理学（CE）

概要

心理学は、人間を理解する基礎学問のひとつとして、「行動の科学」と位置付けられている。つまり、狭義の「心」のみが対象ではなく、人間の行動全体が、関心の対象となっている学問である。本講義では、心の3要素である「知・情・意」を理解した上で、そこから展開する人間の行動に関する専門分野をいくつか取り上げる。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1・2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「心」に関する学問的知見を正しく理解し、「心」に対する専門的関心を高める。
心理学の学びを通して、人間の行動に対する理解と気づきの視点を養い、人間を取り巻くさまざまな現象を考察できる力を身につける。

各回の内容

1. 「心」とは何？
2. 「心」に関する学問の歴史
3. 感覚 五感とその不思議
4. 知覚 物事を認識する働き
5. 記憶 覚えるプロセスと性質
6. 学習 「できるようになること」「できなくなること」
7. 感情と情動 「気持ち」の種類
8. 動機づけ - 「やる気」のメカニズム
9. 心理学の専門分野 発達心理学
10. 心理学の専門分野 臨床心理学（性格）
11. 心理学の専門分野 臨床心理学（心のトラブル）
12. 心理学の専門分野 臨床心理学（心理療法）
13. 心理学の専門分野 臨床心理学（心理療法）
14. 心理学の専門分野 社会心理学
15. 現代社会における心理学的話題
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

都度、次回の講義に関して、下調べをしておく内容を指示する

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 70%
毎回の感想文 30%
試験の解答および解説は掲示する。

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

経済学

概要

経済学の基礎理論を習得し、社会で起こっている様々な出来事を理解するために活用できるよう講義を行う。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

経済学の基礎理論を習得することにより、経済に関係する様々な出来事や政府の政策をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経済学の主要概念・考え方
2. ミクロ経済学(1)
3. ミクロ経済学(2)
4. ミクロ経済学(3)
5. ミクロ経済学(4)
6. ミクロ経済学(5)
7. ミクロ経済学(6)
8. ミクロ経済学(7)
9. ケーススタディ(現実の出来事・政策を経済学で考える)(1)
10. マクロ経済学(1)
11. マクロ経済学(2)
12. マクロ経済学(3)
13. マクロ経済学(4)
14. マクロ経済学(5)
15. ケーススタディ(現実の出来事・政策を経済学で考える)(2)
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、確認テストを4回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験60%、確認テスト40%、いずれも採点后に返却する

教科書

使用しない。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

法学

概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。他方で、法律の分野は限定せず、日常生活との関りが深い民事法を中心に、憲法、会社法、刑事法に至るまで幅広い範囲を講義対象とする。また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、グループディスカッションで議論することを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や他人の意見を理解しつつ自分の意見を構築するプロセスも体験する。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

各回の内容

1. 法と命
2. 日本の根本規範～憲法の世界～
3. 売買契約と契約上のトラブル
4. お年寄りを守る～成年後見制度～
5. 部屋を借りる時の法律～賃貸借契約～
6. 家を買う時の法律～抵当権～
7. 相手が契約を守ってくれない時の法律～契約解除と損害賠償～
8. 事故にあった時の法律～不法行為～
9. 保証人になる時の法律～保証・破産～
10. 結婚・離婚する時の法律
11. 親子に関する法律
12. 相続に関する法律
13. 会社とは～会社法の世界～
14. 犯罪とは～刑法の世界～
15. 刑事手続きと矯正～刑事訴訟法の世界～
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につき資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

筆記試験 40%、確認テスト 30%、講義への貢献度（グループディスカッション実施報告書）15%、リアクションペーパー 15%
 （確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。）

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

日本国憲法

概要

憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が、どのような意義や趣旨に基づくのか、という点に至るまで深く講義していく。

また、憲法上の問題については具体的事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるように、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる
- ・憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる
- ・法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる

各回の内容

1. 日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権 享有主体性
3. 基本的人権 幸福追求権
4. 基本的人権 法の下での平等
5. 基本的人権 信教の自由と政教分離
6. 基本的人権 表現の自由
7. 基本的人権 経済的自由
8. 基本的人権 人身の自由
9. 基本的人権 社会権
10. 統治機構 国民主権と選挙
11. 統治機構 国会
12. 統治機構 内閣
13. 統治機構 内閣
14. 統治機構 裁判所
15. 平和主義
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト・資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- ・筆記試験40%、確認テスト30%、グループワーク実施報告書15%、リアクションペーパー15%
(確認テストの解答・解説は解答用紙回収後に実施する。試験の解答・解説は掲示する。)

教科書

吉田仁美著『スタート憲法（第2版補訂版）』成文堂 2016年3月20日発行

参考文献

その都度、授業で紹介する

人間と教育 A

概要

教育とは何であろうか。これは社会情勢によって重要視されるべき点も異なっていく。それは教育の対象が、社会を編んでいる人間であるからだ。本授業では人間と教育の関係、現代における教育問題などを取り上げ、これからどのような教育が展望されるべきかを考えていく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

人間が人間である最大の特徴は、広い意味での教育を通して成長、発達することにあるとの観点から、生涯学習社会における教育の営みについて、その本質から可能性まで理解ができる。

各回の内容

1. 教育とは何か(授業概要のガイダンス)
2. 教育の本質(何のための営みなのか)
3. 人間の発達課題(教育と学習)
4. 素質と環境(教育の原形)
5. 教育の歴史(西洋における教育)
6. 近代日本の形成と教育の目的～
7. 教育基本法改正の重点
8. 教育の内容、方法～原理と形態教育の成果、評価～
9. 測定と評価の観点
10. 生涯学習社会における教育
11. 家庭教育の現状と課題
12. 社会教育の現状と課題
13. 学校教育の現状と課題
14. 教育とは何か(総括1)
15. まとめ(総括2)
16. 論述テスト

準備学習(予習・復習等)

<予習>

教育に関連するニュースに関心を持つ。また現代教育問題の記事を探し、自らの意見をまとめておくこと。

<復習>

毎回その講義を受けた後に、その日にテーマになった内容についてを調べ、考察し、自らのコメントを書くこと。(次回の授業時に提出)

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

プレゼンテーション20%、授業後のフィードバックシートの内容20%、グループワークへの態度10%、論述テスト50%

教科書

なし

参考文献

汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
森川輝紀『教養の教育学』三元社、2015年

人間と教育 B

概要

「教育」とは、「教え、育む」という意味にほかならないが、その働きかけの対象となるのは、主として人間の「心」である。なぜなら、「心」というものは、「知的能力」「感情、情動」「意志、欲求」の3つの要素から成り立っており、「心」の働きは、「人間そのもの」と言えるからである。そして、人は常に「教え」、「育み」「育まれる」という経験を重ねることにより、日々の営みを成り立たせているとも言える。そのため、本講義は、「人間を考える科目」であるとも言えるだろう。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科・食物栄養専攻
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育心理学で扱われている学術的知見を学ぶことによって専門知識を身につけると同時に、実際の、具体的に「人間」や「教育」について、自身の考えを深め、実践することができる力をつける。

発達や成長は、多角的に捉えられるものであることを知り、人間理解の視野を広げる。

人間の「個性」について、幅広く受け止めることができる価値観を養う。

各回の内容

1. 教育心理学の研究方法与基礎理論

2. 教育心理学の研究方法与基礎理論

3. 胎児期～乳幼児期の発達

4. 胎児期～乳幼児期の発達

5. 幼児期の発達

6. 幼児期の発達

7. トピックス「子どもの絵」

8. 児童期の発達

9. 児童期の発達

10. トピックス「発達のつまずき」

11. トピックス「いじめ」

12. 思春期とは

13. 青年期以降の発達

14. トピックス「Posttraumatic Growth」

15. トピックス「生涯発達」

16. 試験

準備学習（予習・復習等）

予習は特に必要としないが、授業毎に、当日の講義テーマに関して、復習する内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 50%

毎授業時における確認テスト、または小レポート 50%

試験の解答および解説は掲示する。

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

英語

概要

This is a skills-based course with a level of TOEIC 300 (英検 3 級).
Input will be focused on reading skills and vocabulary. In-class
output will be done in groups while covering a wide variety of topics.
This class will be conducted all in English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

Students will develop their English comprehension.
Students will increase their English vocabulary.
Students will create works of English in groups.

各回の内容

1. Introduction
2. April Fools' Day
3. Clever Pigs
4. Split the Bill
5. Disney's Dream
6. Compact Lifestyles
7. Ryo Ishikawa: Record Breaker
8. Midterm Review
9. Unusual Pets
10. Staying in Touch
11. Pet Passports
12. Tying the Knot at McDonald's
13. The Oscars
14. Unique Names
15. Final Review
16. Final Class

準備学習（予習・復習等）

（予習） Read and listen to the text, answer the textbook questions, study the vocabulary.
（復習） Review the answers to the text and the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%,
E-learning 20%, Vocabulary Quizzes 15%,
Textbook Homework 15%, Participation 10%

教科書

『Prism red Second Edition』 Macmillan Language House

参考文献

英語

概要

1. 英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
2. 食物栄養に関する簡単な英語を学び、使う事を通して英語の総合能力を向上させる。
3. 簡単な英語で世界や日本の料理や食文化を紹介する。

担当教員	佐藤純子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

1. 簡単な英語でコミュニケーションができる。
2. 料理、栄養にかんする簡単な英語が理解できる。
3. 簡単な英語で世界の料理や食文化について理解したり紹介したりできる。
4. 簡単な英語で日本の料理や食文化を説明できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、restaurant, dishes
2. restaurant, dishes
3. 世界の料理
4. 世界の料理
5. 世界の料理
6. レシピreading
7. レシピreading
8. レシピreading / 小テスト
9. 世界の行事と料理
10. 世界の行事と料理
11. ダイエット、サプリと栄養
12. 日本の料理紹介
13. 日本の料理紹介
14. 日本の料理紹介
15. 日本の料理紹介：発表
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

授業の予習（単語やフレーズ、和訳など）、授業の復習（単語やフレーズなど）

試験、小テストの準備

発表、課題の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト 30%、課題 20%、試験 30%

日常点（授業への参加度、リアクションペーパーなど）20%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語

概要

- 1.英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
- 2.保育に関する簡単な英語を学ぶ。
- 3.簡単な英語の歌や手遊びを習得する。

担当教員	佐藤純子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1.保育の現場において簡単な英語でコミュニケーションができる。
- 2.保育に関する英語が理解できる。
- 3.簡単な英語の歌や手遊びができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、あいさつ
2. あいさつ
3. song The alphabet song
4. song The alphabet song
5. song Bingo
6. song Bingo
7. song Head, shoulders and knees
8. 小テスト / 課題発表
9. song Old McDonald had a farm
10. song Old McDonald had a farm
11. song Inchy wincey spider
12. song Inchy wincey spider
13. song If you're happy
14. song If you're happy
15. まとめ、発表
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

授業の予習（単語やフレーズ、和訳など）、授業の復習（単語やフレーズなど）

試験、小テストの準備

発表、課題の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト30%、課題20%、試験30%

日常点（授業への参加度、リアクションペーパーなど）20%

教科書

Pamela Conn Beall他著 Wee Sing Children's Song and Fingerplays (Price Stern Sloan) 2005

参考文献

その都度授業で紹介する

英語

概要

編入試験および各種英語試験合格を目標に、英文読解に必要な力を養成する。
260語～300語の英文を扱いながら、読解に必要な基本的な文法および読解力をつけていく。
また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことについての基礎的知識を豊かにする。
英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくる。
わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

前期の目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション Unit 1
2. Unit2
3. Unit 3
4. Unit4
5. Unit5
6. Unit6
7. Unit 1～6
8. 前半総括
9. Unit7
10. Unit8
11. Unit9
12. Unit10
13. Unit11
14. Unit12
15. 後半総括
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解しておくこと。

小テストに向けて復習を怠らないこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

授業への参加態度：10%

教科書

" News Matter " (南雲堂)

参考文献

必要に応じて提示する。

英語

概要

400字程度の英文に取り組みことで、編入試験および各種検定試験合格目標に、英文理解に必要な力を養成する。
また、語彙力の養成に努め、話題として取り上げられたことについての基礎的知識を豊かにする。
英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくること。
わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

前期の目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション Chapter 1・2 (導入)
2. Chapter 1・2 (発展)
3. Chapter 1・2 (応用)
4. Chapter 3・4 (導入)
5. Chapter 3・4 (発展)
6. Chapter 3・4 (応用)
7. プレゼンテーション活動 1
8. まとめ
9. Chapter 5・6 (導入)
10. Chapter 5・6 (発展)
11. Chapter 5・6 (応用)
12. Chapter 7・8 (導入)
13. Chapter 7・8 (発展)
14. Chapter 7・8 (応用)
15. プレゼンテーション活動 2
16. 試験

準備学習 (予習・復習等)

指定された演習問題を予め解いておくこと。

小テストの対策を徹底的に行うこと

本文の音読を積極的に行うこと

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

取り組み姿勢・意欲・態度 10%

教科書

"Breakthrough Japan" (南雲堂)

参考文献

必要に応じて支持する。

本科目を履修する際、英語力に不安を感じている場合は英語 を合わせて履修することを薦める。

英語

概要

英文和訳に取り組み、編入試験で問われる基礎的な記述力・読解力・構文分析力を涵養する。合わせて単語の増強に努めることで、語学力の底上げを図る。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

複雑な英文を読み解く際に必要な語彙力・文法力・構造分析力を中心に精読力の向上を図る。
日本語での適切な表現を学び、記述力の向上に努める。
単語の増強に努める。

各回の内容

1. オリエンテーション/ 英文の骨子をつかむ
2. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：基礎）
3. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：応用）
4. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：実践）
5. 英文和訳演習（分詞：基礎）
6. 英文和訳演習（分詞：応用）
7. 英文和訳演習（分詞：実践）
8. まとめ
9. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：基礎）
10. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：応用）
11. 英文和訳演習（分詞構文：基礎）
12. 英文和訳演習（分詞構文：応用）
13. 英文和訳演習（総合問題演習）
14. 英文和訳演習（総合問題演習）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解いておくこと。

単語テストについての学習を行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

授業への参加態度：10%

教科書

適宜プリントを配布する。

参考文献

必要に応じて指示する。

英語

概要

編入試験を目標に、英文読解に必要な力を養成する。
 国立大学入試問題に相当する英文を扱いながら、読解に必要な基本的な知識および読解力をつけていく。
 また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことに関しての基礎的知識を豊かにする。
 英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくること。
 わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語源を生かした語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション / 英文の構造について
2. パラグラフについて
3. 中文読解演習（環境）
4. 中文読解演習（環境）
5. 長文読解演習（環境）
6. 長文読解演習（社会）
7. 長文読解演習（社会）
8. まとめ
9. 長文読解演習（国際）
10. 長文読解演習（国際）
11. 長文読解演習（経済）
12. 長文読解演習（経済）
13. 長文読解演習（教育）
14. 長文読解演習（教育）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解しておくこと。

小テスト対策を十分に行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業態度 20%

試験 60%

単語テスト 20%

教科書

適宜配布を行う

参考文献

必要に応じて配布する。

履修の際は英語 を合わせて受講することを推奨する。

韓国語

概要

韓国語は日本語と語順が同じだけでなく文法構造も非常に似ており、日本語話者にとってもっとも学びやすい言語といえる。授業では韓国語の読み・書き・会話をバランスよく身につけられるよう指導していく。韓国語は日本語に比べて発音が難しいが、授業内でポイントを押さえながらわかりやすく解説する。また適宜映像教材なども用いながら隣国への理解を深める。

担当教員	伊藤俊介
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1,2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ハングルの文字と発音をマスターする。
基礎的な文法事項を習得し、簡単な文章が読み書きできる。
挨拶や自己紹介など基礎的な会話ができる。
基本単語300語程度を覚える。

各回の内容

1. オリエンテーション（韓国語を学ぶにあたり）
2. ハングルの構造と母音
3. 子音
4. バッチム
5. 叙述分「～です」
6. 否定文「～ではありません」
7. 存在詞「あります/います」「ありません/いません」
8. 注文「～をください」、数詞（1～3）
9. 動詞、数詞（4～6）
10. 動詞、数詞（7～10）
11. 日程と時間の表し方
12. 否定形「～しません」、数詞（百・千・万）
13. 形容詞、希望「～したい」
14. 形容詞、予定「～するつもりです」
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

毎回の授業内容をきちんと復習し、未消化な部分のないようにしておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・授業態度：30%、課題の提出状況：10%、期末試験の成績：60%
試験の解答及び解説は掲示する。

教科書

崔柄珠著『おはよう韓国語1』朝日出版社

参考文献

授業内で適宜指示する。

中国語

概要

発音、文法、姓名の表現、判断、程度、行為、時間、所有、存在、経験などの表現。会話、ドリル、小テスト、生活習慣、食文化、考え方の違い。

担当教員	叶 根青
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

皆さんが楽しみながら、豊かな中国語の表現を身につけ、中国語でコミュニケーションする喜びを感じる。その言葉話す人々の歴史、文化、生活を知り、さらに新しい自己を発見し、人生の目標や友人と会う事と国際交流、理解、平和に役に立つのを願う。

各回の内容

1. 簡単なあいさつ、簡体字、声調（第1,2課） 毎回練習問題あり
2. 発音編（子音、母音）会話を練習（第3,4,5課）
3. 疑問文、反復疑問文、動詞、形容詞（第5,6,7課）
4. 名前を尋ねる、自己紹介、代名詞、疑問詞（第8,9課）
5. 会話文、副詞、量詞、動詞（第10,11課）
6. 家族の構成、疑問詞“几”、カレンダーの、、、（第12,13課）
7. 月、日、曜日、時間の言い方（第14,15課）
8. 小テスト
9. 疑問詞“怎么”“怎么”、文末の“了”、年齢を尋ねる、ちょっと・・・する（第16,17課）
10. 疑問詞“多少”、値段の言い方、数の数え方（第18課）
11. 介詞“給”、語気助詞“吧”、文末の“了”、目的語を2つとれる動詞（第19課）
12. 介詞“在”、“比”、語気助詞“的”（第20課）
13. 介詞“离”、“从”、時間の量の表し方（第21課）
14. “会”“能”、“可以”の助動詞（第22課）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

授業内容の宿題プリントを出し、次の授業に提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

テスト90%、授業態度5%、宿題提出率5%

教科書

小川郁夫 著『初級中国語 教科書+ドリル』白帝社

参考文献

なし

ベーシックスキルズ

概要

高校生から短大生への転換をするための導入教育として大学生にとって基礎的な「学習スキル」と「日本語力」の習得をする。また、キャリア形成を行うための初年次教育として位置づけられ、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得する。

担当教員	山野・三瓶・後藤
授業形態	演習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

大学生として基礎的な「学習スキル」と「日本語力」の習得ができる。また、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得ができる。

各回の内容

1. コミュニケーションワークショップ 1日 90分4回分の授業
2. マインド・マップ 1日 90分×4回分の授業
3. レポート教室 0.5日 90分×2回分の授業
4. レポート教室
5. レポート教室
6. レポート教室
7. レポート教室
8. 「日本語検定」の試験時間を1回分の授業とする(1回目受験料は学校負担)。不合格者には補完教育として補習を実施する。

準備学習（予習・復習等）

6月に実施する日本語検定の試験に向けて、入学前教育として配布されたテキストとを熟読し準備学習を行う。さらに、日本語のe-learningを行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

「コミュニケーションワークショップの振り返り10点満点。「日本語検定」試験結果 准4級未満 30点 准4級 35点 4級 40点 准3級 45点 3級 50点 准2級 55点 2級以上 60点。マインド・マップの課題の評価 20点満点。レポート教室課題の評価 30点満点。総計100点以上は100点とする。

教科書

日本語検定試験テキスト

参考文献

必要に応じ、紹介する。

キャリアデザイン

概要

選択科目であるが、履修することが望ましい。
キャリアデザイン ～ で、連続する科目の一つ。
全体を通して、ワークキャリア・ライフキャリアを考え、卒業後の進路を明確にするとともに、日本語力等を含む社会人基礎力を、主体的に学ぶ力を養う。

担当教員	加藤竜哉 他
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

学業社会から就業社会へのブリッジを行うために、キャリアデザインの必要性を理解し、将来のライフデザインの基礎を築くことができる。
各自のスキルに合った日本語検定試験の準備を主体的に行うことができる。
汎用的なスキルの現状と改善計画を作成することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、汎用ルーブリックによる自己評価、日本語検定模擬試験の実施
2. キャリアデザインの意味と、進路、土台の基礎力の必要性、日本語能力アップ演習 1
3. 日本語能力アップ演習 2
4. 日本語能力アップ演習 3
5. 日本語能力アップ演習 4
6. 日本語能力アップ演習 5
7. 日本語能力アップ演習 6
8. 日本語能力アップ演習 7
9. 日本語能力アップ演習 8、進路調査票の配布(予定)
10. 進路調査回収、社会で普遍的に求められる能力=コンピテンシーを測る (PROG診断)
11. 進路調査個票返却、働くとは：進路の詳細スケジュール、数的思考能力をつける
12. 学科・専攻・コースごとに働くイメージを考える
13. 自分のコンピテンシーを知り、改善計画を練る
14. キャリアプラン・ライフプラン
15. まとめ、期末レポート課題発表

準備学習（予習・復習等）

事前：他の履修科目で関連する事柄を整理しておく。
事後：指示された課題を期日までに提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（15回×5点）=75%、課題作成=25%

教科書

大学生のための日本語問題集，ナカニシヤ出版（合格時に郵送済）
必要に応じてプリント等配布する。

参考文献

第1回目で、本学図書館の蔵書の中から関連する書籍一覧を紹介するので、都度読んでほしい。

キャリアデザイン

概要

卒業後の進路(一般企業への就職、公務員、銀行系、四年生大学や専門学校への進学)を見据え、社会人として身につけておくべき素養の中で、特に基礎学力を向上させることを目的とする。それぞれの進路に合わせてコースを設定予定であり、詳細は追って指示する。なか、全体で講義を行う場合もあるので、適宜掲示を見ること。

担当教員	全教員
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

自己の進路を見据え、主体的に参加し学習を進めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 社会人基礎力演習1
3. 社会人基礎力演習2
4. 社会人基礎力演習3
5. 社会人基礎力演習4
6. 社会人基礎力演習5
7. 社会人基礎力演習6
8. 社会人基礎力演習7
9. 社会人基礎力演習8
10. 社会人基礎力演習9
11. 社会人基礎力演習10
12. 社会人基礎力演習11
13. 社会人基礎力演習12
14. 社会人基礎力演習13
15. 社会人基礎力演習14

準備学習（予習・復習等）

1年前期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握しておく。
選択したコースで指示された事前・事後学習を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する。

教科書

なし
適宜資料を配布

参考文献

都度紹介する。

ビジネス実務

概要

担当教員	加藤・大河原・佐藤（夏）
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

ビジネス実務士資格の必修科目
選択であるが、進路（編入・就職）を考え、限りなく履修することが望ましい

ビジネス実務を基礎から学習する。ビジネス実務 & を通して、実社会のマナー獲得と、進路（就職・編入）面接対応スキルを学び、コミュニケーション力を高める。

eラーニングにより、SPIの基礎学習を行う

目標

ビジネス社会で求められる基礎的なマナーを、講義や演習、実践問題を通して習得する。そのうえで、企業が求めている人材や働くことの意味を考え、自分の言葉で説明することができる。

実社会で求められている数的解決能力をeラーニングで身につけることができる。

各回の内容

1. 企業が求める人材とビジネスマナーの必要性、eラーニングの学習：集合
2. 服装と身だしなみ、立ち居振る舞い： 制服着用 （2回目から14回目まではクラスに分かれて実施）
3. 基本的な挨拶、就業中のルール： ミニテスト有
4. コミュニケーションの概要とビジネス会話
5. 言葉づかいと口癖
6. 敬語、接遇用語、クッション言葉
7. 敬語の実際： ミニテスト有
8. 報告・連絡・相談の重要性、会議の進め方： ミニテスト有
9. 名刺交換、受付対応、案内： 制服着用
10. エレベータ、お見送り、他社訪問、応接室でのマナー： 制服着用
11. 電話対応のポイント、電話をかける： ミニテスト有
12. ビジネスメールの基本マナー： ミニテスト有
13. ビジネス文書の基本
14. ビジネス文書の実践（お礼状と封筒）： ミニテスト有
15. 後期授業に向かってBCSAを受診：コンピュータ教室
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストの指定範囲を読み授業に備える。日頃から自分の言動を意識する。

事前学習：次回学習する該当ページを事前に精読してくる。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストなどの復習。普段の生活に学んだことを取り入れる

eラーニングによる、主体的学習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 1) 毎回の振り返りシート30%（各回5点×15回を満点として30%換算する）
- 2) ミニテスト10%（全体の満点合計を100%として10%換算する）
- 3) 期末テスト40%（テストの満点を100%として40%に換算する）、
- 4) eラーニング(eせいたんスタンダードの学習)10%（学習時間5時間以上を100%として全体の10%に換算する）
- 5) eラーニング（Solomonのおさらい学習終了）10%（すべて終了で10%）

教科書

- ・これだけ知っておけば大丈夫!「ビジネスマナー」のきほん 翔泳社
- ・本学配布のキャリアハンドブック

参考文献

その都度、授業で紹介する。

ビジネス実務

概要

担当教員	加藤・大河原・佐藤（夏）
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

ビジネス実務士資格の必修科目
 選択であるが、進路（編入・就職）を考え、限りなく履修することが望ましい

ビジネス実務を基礎から学習する。ビジネス実務 & を通して、実社会のマナー獲得と、進路（就職・編入）面接対応スキルを学び、コミュニケーション力を高める。
 特にビジネス実務 では、より実践的な演習と、自己のコミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。

目標

eラーニングにより、ミニテスト等を実施する。

前期の各種診断ツール結果等や演習を通じ、自己理解を深め、自分の強みを自分の言葉で表現できる。
 さらに、ビジネス社会の仕事の基本を講義で演習を通して学習し、ビジネスの基礎となるコミュニケーションの考え方とスキルを身につける。卒業後の進路を確実に拓くための社会人基礎力を養うことができる。
 前期に診断したBCSA結果について、自己評価し、改善につなげることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、自己分析の必要性と先輩学生の失敗事例紹介、BCSA診断解説（課題有）
2. 自分の弱み・強みを知り、自己PRへつなく
3. 自己PRを改善する（課題有）
4. エントリーシート(特にOpenES)と履歴書
5. 電話対応演習（eラーニングによる課題有）
6. 立ち居振る舞い、面接訓練と相互評価・改善（制服着用）
7. 物理的環境の整備（ミニCBT有）
8. 信頼獲得と維持（制服着用）（ミニCBT有）
9. 言語・非言語の効果的使用（ミニCBT有）
10. 心理的環境の管理（ミニCBT有）
11. 表現方法の調整（ミニCBT有）
12. 共感、質問と応答、共感情報の発信（ミニCBT有）
13. アクティブリスニング：相手からのメッセージへの対応（ミニCBT有）
14. コミュニケーションの準備と評価（ミニCBT有）、期末試験のための学習について
15. 立ち居振る舞い総合演習、キャップ・ガウン着用時の留意事項演習
16. 試験(試験日は、試験・補講期間日程として掲示)

準備学習（予習・復習等）

事前学習：テキストの指定範囲を必ず精読し、授業に備える。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストや確認テストなどの復習。学習した内容を、普段の生活に取り入れ、日頃から自分の言動の変化を意識し、PDCAサイクルを回す。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

期末テスト60%以下は、再試験

60%以上について、改めて

- 1) 毎回の振り返りシート 30%（各回5点×15回を満点として30%換算する）
- 2) eラーニングテスト15%(全体の満点合計を100%として15%換算する)
- 3) 課題提出 15%（3つの課題）
- 4) 期末テスト 40%（テストの満点を100%として40%に換算する）

教科書

- ・『ザ・コミュニケーション 気づいたわかる、できて身につく社会で輝く9つのスキル』翔泳社、2015年
- ・ビジネス実務 で使用したテキスト、本学作成のキャリアハンドブック
- ・必要に応じプリント配布

参考文献

マイルズ・L・バターソン著、大坊郁夫監修訳、ことばにできない想いを伝える - 非言語コミュニケーションの世界 - , 誠信書房, 2013

情報演習 (CE)

概要

【キャリア教養学科】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

担当教員	加藤・菅野・佐藤（理）
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CE1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問（90%）解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル（情報倫理Webテストについて）
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本
4. 見やすいスライドを作る
5. スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（1）
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（2）
10. 図を活用して魅せる文書を作成する
11. Excelの基本
12. 仕事で利用する関数を使いこなす
13. Excelの便利な機能を学ぶ
14. 伝えるグラフを作る
15. シート操作、データベースを活用する
16. 期末試験

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。（7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい）およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上（350字未満0%、350字～450字10%、450字～550字15%、550字以上20%）
- 2) 課題作成40%、期末試験40%（実践課題作成30%、知識確認10%）

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題（noa出版）

必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (CE)

概要

キャリア教養学科学生対象の情報演習

情報演習 履修合格者対象科目

講義と演習を通し、実社会で活用できるICTスキル獲得を目指す。情報演習の基礎的位置づけ。Webサイトを使った確認テストを都度行う。また、進路に必要な数的基礎学力をつけるためにeラーニングによる課外の主体的学習成果を評価に取り入れる。希望者は、情報活用力診断テストを受験する。

担当教員	加藤・菅野(浩)・佐藤(理)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実践的な問題解決スキルを、収集・分析・整理・表現・運用の課題を通して身に付けることができる。
eラーニング学習により、主体的に学び、進路に必要な数的基礎能力を高めることができる。

各回の内容

1. 情報検索と進路に必要な力
2. 情報運用、eラーニング学習（非言語処理能力）と評価
3. 数値分析（1）：データの加工
4. 数値分析（2）：データの分析
5. データベース
6. ファイル・データ管理
7. インターネットコミュニケーション
8. 情報発信のルール
9. 文書表現
10. ビジュアル表現
11. 成功するプレゼンテーション
12. 発表資料の準備
13. 発表資料の作成
14. 発表模擬演習と評価
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

- 『事前学習』教科書の各セクションが1回に相当するのでセクションを予習してくること。
- 『事後学習』授業内容の復習、課題の作成、CBTによる確認テストの実施
- 『主体的学習』本学サイトによる「非言語分野の基礎」のeラーニング

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題提出30%、Sectionテスト25%（CBT）、模擬演習25%（CBTテスト含む）、eラーニングの学習成果20%
eラーニングは、非言語の基礎全12分野の学習で100%評価し、20%に換算する。（詳細は授業で開示）

教科書

- ・考える 伝える 分かちあう 情報活用力（2017年11月発行第4版）、noa出版 株式会社ワークアカデミー
- ・情報演習 Aのテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

概要

【食物栄養専攻】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

担当教員	加藤・菅野・佐藤（理）
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	D1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問（90%）解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル（情報倫理Webテストについて）
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本
4. 見やすいスライドを作る
5. スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（1）
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（2）
10. 図を活用して魅せる文書を作成する
11. Excelの基本
12. 仕事で利用する関数を使いこなす
13. Excelの便利な機能を学ぶ
14. 伝えるグラフを作る
15. シート操作、データベースを活用する
16. 期末試験

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。（7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい）およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上（350字未満0%、350字～450字10%、450字～550字15%、550字以上20%）
- 2) 課題作成40%、期末試験40%（実践課題作成30%、知識確認10%）

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題（noa出版）
必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

概要

生活科学科1年生対象

情報演習 A 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。

演習を着実に積み上げ、“わかるつもり”を“わかる”へ、“できるつもり”を“できる”にする。

担当教員	菅野(浩)・佐藤(理)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。(栄養士の視点での活用についても適宜解説)

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
10. 売上比較表
11. 都市別世代別人口表
12. 販売数量表
13. 生活費の年間集計表
14. 総合演習
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

<履修前> 情報演習 1 A のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。

<授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。

<授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の課題作成（指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算）60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集（2013対応）』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 1 Aのテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

情報演習 (CH)

概要

【こども保育コース】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際のセキュリティスキルを習得する。

担当教員	加藤・菅野・佐藤（理）
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CH1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問（90%）解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル（情報倫理Webテストについて）
2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
3. Wordの基本
4. 見やすいスライドを作る
5. スライド作成のテクニック
6. プレゼンテーション資料の作成
7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（1）
9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（2）
10. 図を活用して魅せる文書を作成する
11. Excelの基本
12. 仕事で利用する関数を使いこなす
13. Excelの便利な機能を学ぶ
14. 伝えるグラフを作る
15. シート操作、データベースを活用する
16. 期末試験

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。（7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい）およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング350字以上（350字未満0%、350字～450字10%、450字～550字15%、550字以上20%）
- 2) 課題作成40%、期末試験40%（実践課題作成30%、知識確認10%）

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題』noa出版
必要に応じプリント配布

参考文献

その都度、授業で紹介する。

情報演習 (CH)

概要

生活科学科1年生対象

情報演習 A 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。

演習を着実に積み上げ、“わかるつもり”を“わかる”へ、“できるつもり”を“できる”にする。

担当教員	菅野(浩)・佐藤(理)
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。(保育士の視点での活用についても適宜解説)

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
10. 売上比較表
11. 都市別世代別人口表
12. 販売数量表
13. 生活費の年間集計表
14. 総合演習
15. まとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

<履修前> 情報演習 1 A のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。

<授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。

<授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の課題作成（指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算）60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集（2013対応）』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 1 A のテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育講義

概要

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年
時間数	90分×7.5回(集中)
単位数	1

体育、運動生理学について講義をし、その後講義の内容に基づきクイズ形式で授業を進める。体育の「歴史、概念、意義、ねらい」や「人間の発達段階」、「体力の概念」を知り、運動と健康について考える。運動が心身の健康のためにどれだけ大切なのかを理解したうえで、自分自身の健康をはじめ将来母親になったときに、わが子の健康をも考えることができるようにする。また、最後にクイズで出した問題の中からテストする。授業は2日に分けた集中でおこなう。

目標

体育の歴史を通して、今日ある体育の意義を知り、何を指した教科なのかを理解することができる。また、人間の身体の構造や機能、体力の概念を理解し、運動が心身に与える効果を知り実践することができる。

各回の内容

1. 体育の歴史と定義
2. 体育の意義と内容
3. 現代における体育の課題
4. 人間の発達(スキヤモンの発育型)
5. 脳の働き 体力の概念 運動と健康 健康の定義
6. 生活習慣病について 運動の効果 生涯スポーツについて
7. テスト
8. まとめ

準備学習(予習・復習等)

- ・規則正しい生活習慣を心掛け、自分の身体を意識する。
- ・復習として、配布した参考資料並びに「身体」「発育発達」「運動」に関する内容を、本を読んだり、インターネットで調べ、「身体の特徴」と「運動」の関係性について理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題(クイズ)30%
テスト70%

教科書

なし。授業で資料を配布する。

参考文献

幼稚園教育要領、小学校教育指導要領、中学校教育指導要領(保健体育編)、高等学校教育指導要領(保健体育編)

体育実技

概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	実技
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物・キャリア1・2年生
時間数	15
単位数	1

目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ2
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ3
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ3
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ4
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(1班担当)
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(2班担当)
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(3班担当)
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(4班担当)
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(5班担当)
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(6班担当)
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

規則正しい生活習慣を心がけると共に、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

運動量(各回の内容に基づいて、適切に身体を動かしているかを評価する)50%
記録表(心と体の記録表を適切に記述できているかを評価する)50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育実技

概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

担当教員	堺秋彦
授業形態	実技
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育1年生
時間数	15
単位数	1

目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ2
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ3
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ3
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ4
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(1班担当)
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(2班担当)
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(3班担当)
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(4班担当)
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(5班担当)
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ(6班担当)
15. まとめ

準備学習(予習・復習等)

規則正しい生活習慣を心がけ、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

運動量(各回の内容に基づいて、適切に身体を動かしているかを評価する)50%
記録表(心と体の記録表を適切に記述できているかを評価する)50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度紹介する。

